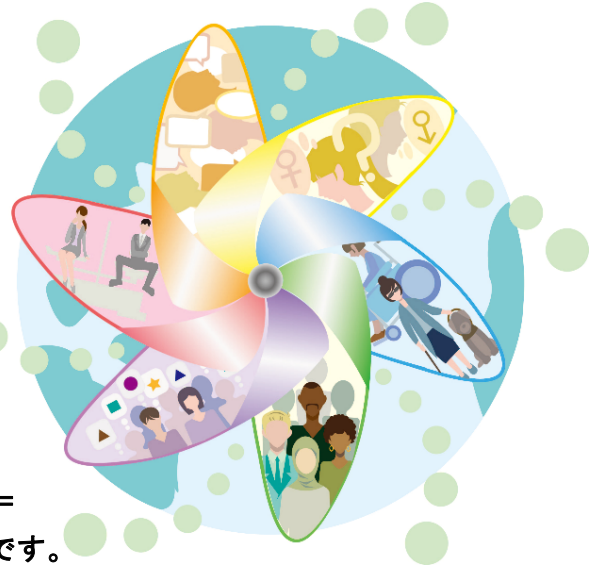


しそう男女共同参画センターだより

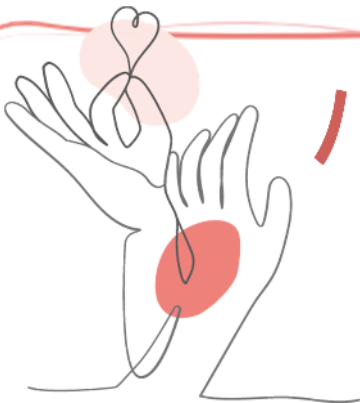
～自分が変わる、社会を変える～
一人ひとりを認めあい、
支えあうまち しそう



こんにちは、宍粟市男女共同参画センターです。
男女共同参画センターは、すべての人が性別にかかわらず個性や能力を発揮して責任や権利、機会を分かち合える社会＝ジェンダー平等社会をめざして設置された宍粟市の拠点施設です。

キーワードは

パートナー／男性の家事が社会を救う!?



パートナーとの 関係を考える

心と体を整えて笑顔で過ごすよりよい関係を・・・

講座の内容

パートナー（夫、妻、恋人など）の機嫌が気になる、あるいは、しばしば「パートナーを怒らせる私が悪いのかな？」と思うときがある、こんなはずじゃなかったのに・・・など、不安や戸惑いを感じることはありませんか？
パートナーとのコミュニケーションやお互いの違い、自分の思い込みなどをふり返り、日々の心のつぶやきを考えます。

日時：令和5年12月1日(金)10時30分～12時00分

場所：宍粟防災センター4階研修室

対象：どなたでも参加可能

託児：要予約、無料

講師：福本知栄子さん(女性問題カウンセラー・福祉カウンセラー)

申込／問合せ：宍粟市男女共同参画センター

TEL 0790-63-0840 FAX 0790-63-0841

E-mail shiminsodan-kk@city.shiso.lg.jp

定員
20名程度
(申込順)

申込みはこちらの↓
QRコードから可能です



講演会レポート

男性の家事が社会を救う!?

笑って考えよう!

家庭のこと、仕事のこと、未来のこと

令和5年7月29日中央防災センターにて、東京大学大学院教授の瀬地山^{せちやま} かく 角さんを講師に迎え、「誰もが自分らしく生きる共同参画社会づくり講演会」を開催しました。

瀬地山さんはジェンダー論の研究者であり、10年間2人の子どもの保育園の送迎を一手に担い、今でも普通の夕食づくりをしています。ご自身の経験談を交えながら、男性の家事や育児、これからの時代の家族・仕事のあり方について、熱い想いをお話いただきました。

講演を基に要約した内容を紹介します。

講師プロフィール

1963年生まれ、奈良県出身。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、学術博士。2009年より東京大学大学院総合文化研究科教授。主な著書に「炎上CMでよみとくジェンダー論」（光文社）「お笑いジェンダー論」「東アジアの家父長制」編著「ジェンダーとセクシュアリティで見る東アジア」（いずれも勁草書房）など



1. 子育てとは

僕は、結婚相手を決めるより先に「子どもを自分の職場の保育所に預けて働く」ことを決めていて、実際その通りになってからは送り迎えと夕食の用意を担当していました。その間に、子育てで男性にできないことは何一つないと自信を持って言えるようになりました。「ママがいい」と言って子どもがぐずることがありますよね。「ママがいい」と言うときにお父さんが子どもを手離してしまうのが一番よくなくて。「ママがいい」と言っているのは、お父さんよりママの方が一緒にいる時間が長いからです。「うちのお父さんは4時間しかもたなくて」と言う人がいますが、それはママが3・4時間で帰ってくるのがよくないんです。子どもが「ママがいい」とぐずりだしたなら、解決策はその場にママがいなくなることです。

2. 子どもとの信頼関係と性的役割分担意識

僕は日本中の講演会に子どもたちを連れて行っていました。そんな時、子どもたちは「ママがいい」とは絶対言いませんでした。頼るのは僕しかないに分かっていますから。そういう積み重ねで信頼関係を築いていけるということです。

今の日本社会では女性が子育てを担っているケースが多いですが、それは社会が決めたことです。性別による代わりが出来ない役割は出産までで、そこから後は人が決めた役割に過ぎないのだから、人が変えていくことができます。子育ては生まれつき女性がするものと決まっているわけではないのです。

「ジェンダー」とは一般的に「社会的性差」と訳されます。「男はこうだ」「女はこうだ」と考えていることの大半は、実は生物学的に決まっているのではなく人が生み出したものであり、時代や社会でその概念が大きく変化していくような、社会的な約束事に過ぎないのです。



3. 少子高齢化社会について

少子高齢化社会ではどんどん人口が減っていき、それに伴い働き手も減っていきます。働き手を増やす政策は3つしかない。1つめは高齢者、2つ目は働いていない女性、3つ目は外国人労働者です。

僕は東アジアのジェンダーの比較が専門ですが、台湾を含めた中国文化圏では、高齢者が働くことは息子のメンツを潰すことだと考えられています。そのため高齢者の労働力がとても低く、50歳代以降は急激に下がります。でも、日本は高齢者が働いてもいいと考えている。それなら、日本の少子高齢化が抱える問題の解決策として、高齢者のみなさんがもっと働ける社会をつくる必要があるんじゃないかと思っています。



4. パートナーに結婚相手として求めるもの

今、女性がパートナーに結婚相手の条件として求めているものは、1位が家事育児の能力、2位が仕事への理解、3位が経済力です。

独身の女性に人生設計を聞くと、バブルの頃は3割が専業主婦と回答したそうですが、今は1割もいません。そして同様に、男性にパートナーになってほしい人の人生設計を聞くと、バブルの頃は専業主婦が4割でしたが今は1割もいません。男性も自分が大黒柱になれないと気づいているということになります。



5. 「男性の家事が社会を救う」とは

「男性の家事が社会を救う」ということについて、まず子育てをする労働者と子育てをしない労働者が労働市場*で自由に競争してしまったら、どういうことが起こるかを考えてみましょう。

たとえば、ある若い人が採用の面接に来ました。面接官は、女性の時だけ「お子さんが熱を出した時は残業できますか？」などの質問をします。これは男性には聞きません。要するに、企業には育児のコストが女性労働者にだけ肩の上に加算されているように見えている状態です。そのため企業は、合理性のひとつとして育児のコストのかからない男性を選んでしまうわけです。

企業がこうした選択を重ね職場をつくると、育児をしない人たちばかりになり、結果として育児ができない職場になってしまい、労働力という商品が育児のコストを考慮されないまま売られてしまいます。男性は、まるで育児という労働が存在しないかのように働いてしまうのです。男性が働いていてもその背後には育児があるので、そのコストを含めての労働力という商品が売れるようにならないといけないと思います。つまり、この状況が日本中で生じているのが「少子化の問題」なのです。日本の少子化というのは、労働者が育児の時間やコストを保証されないまま働いていること、個々の企業の合理的な選択が集まった結果として、大きな社会的不合理が生まれていることが原因です。

だから、男性がきちっと育児や家事に関わらない限り、日本の男女差別の問題はなくならないし、少子化の問題も解決しないと思います。それが「男性の家事が社会を救う」ということです。



※労働市場…社会資本主義で、労働力が商品として取引される抽象的な市場

6. 個人差は必ず性差を超える

異質平等論とは「男女は違った役割を果たしていても平等・対等である」という議論ですが、僕は賛成できません。男女の平等を考える時には、必ず性別からの自由というのを考えなければならないと思うからです。つまり、重い物を持つ職業であれば、重い物を持てるかどうかのテストをすればよいのであって、そこに男性だから重い物が持てるか、女性は持てないなどの性別の思い込みをしてはならないと思います。

男女という2種類の性別の箱は人間の多様性を押し込めるにはあまりにも種類が少ない。性別から自由になるということは、「男らしさ/女らしさ」を否定するものではなく強制されないことが重要です。

最後に



少子高齢化社会で、高齢者も含めて女性が働いていくためには、男性の家庭参画がないと解決しないと考えています。今すぐにはできることの例えとして、家事を妻に任せきりのときに、妻が入院してしまったとしたら残った家族では家事が出来ずに困ってしまうことのないように、「家事の避難訓練」をすることも大切です。それは男性自身の肩の荷を下ろすことにもつながっています。今回の講演をきっかけに、これから働く新しい社会のつくり方を考えていきましょう。

講演をきいて(アンケートの一部を紹介します)

○「家事は役割分担ではなく、避難訓練だと思って行く」の言葉に、そうだと思います。この発想ができれば、家族みんなで家事をこなすことが当然のことになると思います。

○「ママがいい！に負けへん！」負けないように育児します。

○妻が倒れたときなど緊急時のため、夫は家事の避難訓練をするべきである。

○子育ては終了しましたが、お互いの親の介護が徐々に私の妻と私にのしかかり、私は家事育児の際も妻にお任せで、今回の介護も妻に大部分を任せようとしていました。妻は結婚してから専業主婦であったことから、家事育児などの家庭の事は全て妻、仕事や地域との付き合い等は私の役割としてきたので、今回の講演で改めて自分の認識が間違っていたことに気づきました。



○女性は子どもが小さいときは家に居るのがいいことだと思っていましたが、男性も家事・子育てを一緒にすることが大事だと分かりました。

○共働きですが、子どものことで休むのは母親である私が当たり前になっています。私も夫も同じ働く者同士なのになぜ私ばかりが休むことになるの？と考えてしまいます。夫と話し合いをしてみます。

男女共同参画センターではさまざまな講座や映画上映会を開催しています。あなたも参加してみませんか？

宍粟市男女共同参画センターの紹介

■宍粟市男女共同参画センターは、宍粟市における男女共同参画を推進する拠点施設です。一人ひとりの課題解決の糸口を見つける場、自分らしさを生かしチャレンジする力をつける場として、男女共同参画を進めていく拠点施設をめざしています。

場 所：宍粟防災センター2階

開所時間：平日（月曜日～金曜日）の8:30～17:15 ※土日・祝日・年末年始は休館

TEL 0790-63-0840

FAX 0790-63-0841

E-mail shiminsodan-kk@city.shiso.lg.jp

■利用して 相談窓口

誰もが抱える家庭や職場、身の周りのさまざまな問題、または不安な気持ちを解決するために、女性相談員や性的マイノリティ当事者の相談員等が寄り添い、共に考えサポートします。

女性相談 女性に関する相談全般を受付けます。相談内容によっては、必要な窓口を案内します。

相談日 毎月第1火曜日、第3金曜日の8:30～17:15（祝日・年末年始を除く）

相談方法 電話、面接（要予約）

しそうにじいろ相談 性的マイノリティの悩みに関する相談全般を受付けます。悩みを抱える本人のほか、家族や学校、事業者などからの相談も受付けます。

相談日 第3水曜日の8:30～17:15（祝日・年末年始を除く）

相談方法 電話、面接（要予約）

詳しくは
QRコードから



■ひとりで悩まないで 必要な方へ生理用品をお渡しします

さまざまな事情で生理用品を十分に入手できない方がおられます。男女共同参画センターでは生理用品を必要な方に無償でお渡ししています。申し出にくい場合は市内公共機関のトイレなどに設置された「カード」を提示してください。スマホ画面表示でも可能です。

宍粟市男女共同参画センター(人権推進課内) 2023年11月発行